

関係団体の意見と対応

【平成17年度連携排砂計画（案）及び平成17年度連携排砂に伴う環境調査計画（案）について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>①連携排砂には基本的に「絶対反対」であるが、漁場環境や漁業への影響がでない方策を講じて行われる連携排砂についてはやむを得ない。しかし、今年度は出し平ダムにおいて相当の排砂量が予想されること、また、今後の宇奈月ダムの堆砂形状を踏まえ、排砂方法の見直し、通砂を含めた複数回排砂を検討願いたい。</p> <p>②流沈木による漁業への影響が顕著になりつつある中、排砂実施機関においても、対応案について検討願いたい。 また、漁港内などの流沈木処理について、体制づくりを検討願いたい。</p>	<p>①排砂による環境への影響を小さくするため、土砂の変質を防止し、できるだけ自然の土砂流下に近い形で排砂を行うことが必要であり、毎年、排砂を確実に実施することが重要と考えている。 今後も黒部以東海域漁業振興対策協議会をはじめとして、関係団体、関係機関の理解を得ながら排砂を実施していきたいと考えている。また、宇奈月ダム貯水池が土砂を貯める段階から通過させる段階に移行していることから排砂評価委員会の意見を踏まえて、排砂及び通砂の方法について検討を行いたいと考えている。</p> <p>②これまでも出し平ダム及び宇奈月ダムのダム湖に出・洪水時に流入してくる流木については、排砂期間前及び排砂期間中の排砂及び通砂に至らない出水後に流木を回収している。 また、平成16年度の連携通砂時の洪水が出し平ダム完成後3番目に大きな規模の洪水であったことから、倒木等の大量の流木が自然現象である洪水により上流域から流下しダム下流の河道内に堆積した。この大量に堆積</p>

【平成17年度連携排砂計画（案）及び平成17年度連携排砂に伴う環境調査計画（案）について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>③連携排砂でダムから流出した土砂量や海に流入した土砂量、および拡散状況の把握に今後とも努めてほしい。</p>	<p>した流木を河道内に放置すると次回の洪水時に下流に流出し、被害を及ぼすことが想定されたことから河道内に堆積した流木を回収した。</p> <p>今後も上流からダム湖に流入し浮遊する流木及び河川管理上支障のある河道内に堆積した流木の回収については、引き続き実施して参りたい。</p> <p>また、排砂時に漁港内などに流入した流沈木の処理については、関係機関に対して体制づくりをお願いして参りたい。</p> <p>③土砂収支について一定の精度を持ったシミュレーションを行うにあたっては、シミュレーションの入力条件及びシミュレーション結果と排砂中及び洪水時の土砂モニタリングによる実測値との検証が重要であるが、現在の技術では洪水時の観測が困難な状況にある。</p> <p>このように土砂動態の測定技術の飛躍的な向上は難しいものではあるが、平成16年度からは、平成15年度まで実施してきた排砂直後及び12月時点の2回のダム貯水池測量に、排砂期間直前の5月測量を加えて、年3回測量を実施し、さらに出・洪水時、排砂・通砂時の流砂量観測も実施するなど土砂量の把握の取り組みを強化しているところである。</p> <p>また、今年度は濁りの拡散範囲を考察するため、黒部川と他河川の底質の比較調査を計画している。</p>

【平成17年度連携排砂計画（案）及び平成17年度連携排砂に伴う環境調査計画（案）について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>④排砂と魚の生息への影響や忌避行動との因果関係について、今後とも調査地点、方法を含め検討してほしい。</p>	<p>④これまで専門家の指導ならびに海面漁業関係団体と相談しながら、魚の生息環境の変化を把握するため、水質、底質、マクロベントス、プランクトンの調査を行ってきたところである。</p> <p>平成17年度には排砂1日後の底質調査として、平成16年度に実施したC点のほか3地点で新たに実施することとしている。</p> <p>なお、排砂と忌避行動との因果関係については専門家の意見等を踏まえながら、検討して参りたい。</p>

【平成17年度連携排砂計画（案）及び平成17年度連携排砂に伴う環境調査計画（案）について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
<p>内水面漁業関係団体</p>	<p>①昨年は排砂後の措置として、局所的な細粒土砂の堆積を防止するための追加放流を計画していたが、流木の影響のため中止した。 今年は、細粒土砂の局所的な堆積による魚族への影響が考えられるため、宇奈月ダムからの排砂後の措置による追加放流を実施すべきである。</p> <p>②排砂によって黒部川の粗石が細粒化した土砂に埋まり、アユの餌となる藻類が成育しづらくなっている。 四十八ヶ瀬大橋下流に巨石を投入し、漁場の改善回復に努められたい。</p>	<p>①平成16年度の連携通砂時の洪水が出し平ダム完成後3番目に大きな規模の洪水であったことから、ダム上流域から大量の流木が流下し、下流河川の河道内に堆積した。そのため、排砂後の措置の試行を実施した場合、これらの流木が海域に流出し被害を及ぼすことが予想されたため、関係自治体に説明した上で、排砂後の措置の実施をやむなく見合わせたものである。 平成17年度の排砂計画には、この排砂後の措置の試行を盛り込んでおり、平成16年連携通砂時のような特段の状況が発生しない限り、試行を実施することとしている。</p> <p>②黒部川は洪水による河床変動が著しく、各所で堆積や洗掘が繰り返されているが、黒部川の河川環境を保全創造するための取り組みとして、内水面漁協の意見を踏まえて、平成16年度に下黒部橋上流に自然巨石や巨石ブロックを試験的に投入した。 今後も内水面漁協や専門家の意見を踏まえ、黒部川の河川環境を保全創造するための対策を実施して参りたい。</p>

【平成17年度連携排砂計画（案）及び平成17年度連携排砂に伴う環境調査計画（案）について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>③排砂による魚族への影響を把握するため、平成17年度は排砂を見送り土砂変質抑制策を実施し、排砂した年度と比較すべきである。</p>	<p>③排砂による環境への影響を小さくするため、土砂の変質を防止し、できるだけ自然の土砂流下に近い形で排砂を行うことが必要であり、毎年、排砂を確実に実施することが重要と考えている。</p> <p>今後も内水面漁協をはじめ、関係団体、関係機関の理解を得ながら排砂を実施していきたいと考えている。</p>

【平成17年度連携排砂計画（案）及び平成17年度連携排砂に伴う環境調査計画（案）について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
<p>農業関係団体</p>	<p>①晴天時での断水に対する苦情が多い。農業関係者の中には排砂に対する認識が少ない方々がいることから、排砂の実施および排砂後の調査結果に関する広報を強化してほしい。</p> <p>②農業用水の取水停止時間の短縮や幼穂形成期を外す等、農作業の実態に合わせた排砂期間を検討してほしい。</p>	<p>①これまでも排砂期間前、連携排砂実施中、排砂評価委員会及び土砂管理協議会開催時等、機会あるごとに新聞折り込みや記者発表、事務所ホームページへの掲載等により広報に努めてきたところである。また、平成16年7月の排砂・通砂時には、農業用水の取水再開の目途について記者発表を行った。今年度も地元自治体等と相談しながら、さらに適切な広報に努めて参りたい。</p> <p>②これまでも農業用水の取水停止時間をできるだけ短くするため、平成15年度より排砂実施期間中の6月上旬のダム運用水位を低めに抑えるなどの対策を講じてきた。 平成17年度からは、黒部川沿岸土地改良区と調整し、特に長時間の断水が水稻の成育に影響を及ぼすと考えられる7月15日から31日の期間に排砂を実施する場合は、これまで昼間のみに取水を再開していたが、夜間においても取水再開が出来るよう河川の濁り状況で判断する基準値を設け、取水停止時間の短縮を図ることとしたい。</p>